

JA全農 **WEEKLY**

2面

自己改革はほぼ計画通りに進捗

臨時総代会後に記者説明会を開催

4面

平成30年新規採用職員の入会式



新入職員を代表して長澤豊会長に決意表明する川村聡史さんと松田琴乃さん(4面)



英国の清酒醸造所へ搬入される日本産酒米(3面)



徳島県本部は「とくしまマラソン」で徳島県産すだち飲料「ずすだちウォーター」でランナーを応援(5面)

- 2 ニュース&トピックス(広報部)
- 3 ニュース&トピックス(米穀部、JA全農インターナショナル(株))
- 4 ニュース&トピックス(人事部、広報部)
- 5 ニュース&トピックス(徳島県本部、山梨県本部)
- 6 ニュース&トピックス(耕種総合対策部)
- 7 特集:JAグループ農機サービス士 44人認定(生産資材部)
- 8 コミュニケーション(広報部、JAタウン)



商品の関連記事は5面に掲載



自己改革はほぼ計画通りに進捗しん ちよく

— 臨時総代会後に記者説明会を開催 —

記者説明会であいさつする長澤会長



全農は3月27日、東京・大手町のJAビルで「平成30年度事業計画」と「農林水産業・地域の活力創造プラン」に係る取り組み状況について記者説明会を開きました。

【広報部】

冒頭で、長澤豊会長は「3か年計画の最終年度の総仕上げに取り組むとともに、2年目に入る『自己改革』の加速化を進める」「JAと連携し、全農が農家・組合員からの期待に応えられる、農業分野の『総合ステーション』になれるよう、精いっぱい努める」とあいさつしました。

その後、神出元一理事長が、平成30年度事業計画と、自己改革の進捗状況を説明しました（主なポイントは下記の通り）。

また、イオングループで要職を歴任した寺嶋晋すすむ氏を登用したことを発表しました。戸井チーフオフィサーのもと、営業開発部の業務を中心に販売事業全般のサポートに当たります。

同日午前に行われた臨時総代会で、平成30年度事業計画が承認されたことに伴うもので、新聞社など18社29人の記者らが出席しました。

「農林水産業・地域の活力創造プラン」に係る取り組み状況

肥料

- 高度化成・NK化成肥料の一般銘柄について、全国400銘柄を17銘柄に絞り込み、29肥料年度春肥では7万トンを超える予約数量を積み上げ
- 入札によりメーカー数を14社33工場から8社13工場に削減、銘柄当たりの生産数量を約250トンから約4000トンに拡大
- 供給範囲も全国一律からブロック単位に変更し、配送コストを圧縮。これらの結果、おおむね1～3割の価格引き下げを実現

飼料

- JA西日本くみあい飼料(株)の倉敷新工場が29年6月に稼働し、水島工場、神戸工場の製造を移管。今後、坂出工場の移管を進め、倉敷新工場・宇和島工場の2工場での合理的な製造・供給体制を実現
- 米国では全農グレイン(株)の原料船積能力を増強(年間1900万トン、現行比550万トン増)し、30年4月から稼働

農薬

- 農薬担い手直送規格は通常規格と比較し、おおむね2～3割の価格引き下げを実現。その取扱いは28年度実績120JA・2.1万トンから大幅に伸長し、29年度は274JA・5.25万トンの見通し

米穀

- 直接販売計画100万トン、買取販売計画30万トンともに達成の見込み
- 直販関連インフラの整備では、29年度は3か所で広域集出荷施設を設置

農業機械

- 29年9月に生産現場の声を反映させた、60馬力クラスのトラクター1～2型式をメーカーに開発要求。全国目標台数を1000台(30～32年)として、共同購入を希望する生産者からの事前申込を取りまとめるうえ、30年6月に入札によりトラクターの型式を決定し、共同購入を実施

園芸

- 直接販売計画3200億円をほぼ達成の見込み
- 直販関連インフラの整備では、29年度は2か所で調整・加工施設等を設置

段ボール

- 標準パレット寸法等を基準に、3品目(タマネギ、サトイモ、ピーマン)の全国標準段ボール箱規格(44規格)を設定。対象245JAのうち、106JAが購入意向を示し、年間約300万ケース分の積上数量に基づき、ブロック別・品目別見積り合わせを29年10月に実施し、基本価格条件を決定
- 3品目で約1400規格あるなか、県域独自の規格集約と合わせて、約3割程度削減の見込み

輸出

- JAグループの輸出額の29年度見通しは前年比116%の144億円
- 米では、多収・低コスト栽培の実証試験を4県17JAで実施
- 香港向け桃、シンガポール向け白菜・大根でリレー出荷を実施



木徳神糧株式会社への出資で合意

水田営農の持続的発展と国産米需要拡大など実現へ関係強化

米穀部

全農は、木徳神糧株式会社に対して出資を行うことについて合意に達しました。

全農は、平成29年3月に公表した「農林水産業・地域の活力創造プラン」に係る対応のなかで、米穀事業については、生産者手取りの確保と農業経営の安定を目的に、実需者への精米での直接販売を主体とした事業方式への転換を図ることとしています。その目標達成に向けた取り組みの一つとして、実需者への安定した販路を構築している米卸業者との資本・業務提携を進めていくことを掲げました。

全農と木徳神糧(株)とは、これまで米穀の重要な取引関係にあり、29年10月に業務提携契約を締結していますが、業務提携の狙いである水田営農の持続的発展と国産米の需要拡大などを実現していくためには、双方の関係をより一層強化する必要がありますとの共通認識に至り、全農が木徳神糧(株)に出資することについて合意に達しました。木徳神糧(株)の株式の3・51%を4月19日に取得する予定です。

【出資先の概要】

社名	木徳神糧株式会社
本社所在地	東京都千代田区
設立	1950年3月
資本金	5億2950万円
売上高 (2017年 12月期)	1054億1100万円 (うち米穀事業 898億6500万円)

全農と木徳神糧(株)は、30年産以降の事業環境を踏まえて、実需者も含めた事前契約の拡大、実需者ニーズに応じたJA・生産者に対する作付提案など、生産から販売までの一貫した取り組みの確立に向けて協議を進めてきたところですが、「原料米調達」「実需者対応」「製造・配送」「商品開発」などの業務分野ごとに検討体制を構築し、理念の早期実現を図ります。

英国の日系清酒醸造所へ日本産酒米納入開始

日本酒を通じた日本産米需要拡大に向けて

JA全農インターナショナル(株)

JA全農インターナショナル株式会社は、英国の清酒醸造所へ日本産の酒米の納入を開始しました。

納入先は、大阪市のビール醸造会社「堂島麦酒醸造所」が、ロンドンの北東にあるケンブリッジシャー州の30畝の敷地に建設した清酒醸造所です。

同醸造所は4月から試験製造を始めており、初回納入分の4トンは、全農パールライス株式会社灘工場で精米した「秋田県産秋田酒こまち」と「兵庫県産山田錦」で、3月26日に同醸造所へ納入されました。4トのお米からは一般的な清酒換算

で9520瓶(一升瓶で約5300本)が製造される計算になります。

日本酒そのものの輸出拡大に加え、このように海外の醸造所に日本産原料米を供給していくことは、日本酒を通じた日本産米需要拡大のための有効な手段です。

JA全農インターナショナルは、このような原料用途向けも含めたあらゆる需要の創出に向けた提案を行っていくことで、今後も日本産農畜産物の輸出拡大に取り組んでいきます。



英国の清酒醸造所へ搬入される日本産酒米



英国の清酒醸造所

News!



全農職員としての決意新たに

平成30年新規採用職員の入会式

人事部

新入職員一人一人に辞令書を手渡す
長澤会長



長澤会長は、全農の事業について前身である全販連・全購連の発足から数え今年で70年となることに触れ、「世の中の変化に対応し、組合員、国民からの声に応えるためには良いものは残しつつ、既存の全農を壊し、改革を進めていく必要がある」と述べました。さらに、「全農の仕事に

全農は4月2日、平成30年新規採用職員の入会式を東京・大手町で行いました。長澤豊経営管理委員会会長は新入職員一人一人を激励しながら辞令書を手渡し、新入職員は喜びいっぱいに受け取りました。

誇りと情熱をもって取り組みながら、さまざまなことにチャレンジをし、JAグループ全体に活力を与え、一人一人が『生産者と消費者を安心で結ぶ懸け橋』となるよう期待している」と歓迎のメッセージを贈りました。

新入職員を代表して川村聡史さん（山形県本部配属）と松田琴乃さん（本所配属）が、「生まれ育った地元山形の農畜産物を日本各地、さらには海外にもどんどんPRし、多くの人に知ってもらいたい」「これまで学んできた語学を使って海外への日本産農畜産物の販路拡大に貢献したい」と入会に至る動機を述べ、「全国各地に配属される仲間とともに、新人らしく明るく元気に日本の農業を盛り上げたい」と決意表明しました。

News!



高校球児向け栄養教育プログラム開発に着手

立命館大と連携し全国8校が参加

広報部



全農は4月4日、立命館大学と連携し、高校球児向け栄養教育プログラムの開発に着手することを発表しました。

このプログラムは、高校球児に対する米飯を中心とした日本型食生活による適切な栄養教育と、高校球児自らが正しい知識をもとに自ら考えてバランス良い食事を行うなど、ライフスキルの身につけてもらうためのものです。

プログラムの開発には、滋賀県立彦根東高校ほか、近畿圏を中心とした全国計8校が参加します。

この取り組みは、全農の子どもたちへのスポーツ支援の一環で、参加校球児に対して3年間、毎月400キを上限として、地元JAのお米を提供していきます。全農の山崎周二専務は「高校球児の食生活に関する正しい知識・指導プログラムの開発に着手した。参加校の球児からは、地元JAの地域貢献活動に参加するとの声も出ている。この取り組みが全国に広がり、地域活性化にもつながれば」と話しています。



とくしまマラソン2018で応援活動

ランナーを徳島県産米のおにぎりやドリンクでおもてなし

徳島県本部



駆け抜けるランナーにおにぎり、ザすだちウォーターを配り応援する徳島県本部職員

徳島県本部は職員30人が応援隊を結成し、3月25日に開かれた「とくしまマラソン2018」でランナーへの応援活動を行いました。

応援隊はマラソンコースとなった徳島県本板上板畜産センター前の沿道で、徳島県産米「あきさかり」の「一口おにぎり」と徳島県産すだち飲料「ザすだちウォーター」を配り、「頑張ってく

ださい！」などの声援と拍手でランナーを熱く応援しました。

うらかなマラソン日和のこの日、懸命に走り込んでくるランナーからは、次々と「おにぎり最高！」や「ザすだちウォーター美味しいです！」などの声をいただき、用意したおにぎり1万个とザすだちウォーター5000杯は好評のうちに全て配り終わりました。

第11回となる本大会には、県内外や海外から1万2416人のランナーが参加し、徳島県本部からも12人の職員が出場しました。各々、自己ベストや完走などの目標達成を目指し、春の阿波路を懸命にゴールに向け駆け抜けました。

徳島県本部は今後もこうした活動を通じて、徳島県産農産物のPRを行っています。



初の山梨県TACパワーアップ大会開催

TAC活動未実施JAの取り組み促進へ

山梨県本部



取り組み事例を発表するJAフルーツ山梨のTAC担当者

山梨県本部は3月20日、JA山梨営農生活指導員連絡協議会の協賛で「第1回山梨県TACパワーアップ大会」を笛吹市内のホテルで開き、県内の営農指導担当者・関係者約80人が出席しました。

この大会は、山梨県におけるTAC活動のさらなるレベルアップと、営農指導員・TACのモチベーション向上を図ると共に、TAC活動のないJAに対し活動の意義を知ってもらうことを目的に開きました。

県内のTAC活動は、営農指導を担当する職員が兼務し、担い手農家へ継続的に訪問し、要望・意見など情報を共有化しています。

大会に先立ち榎原一明県本部長があいさつ、JA全農TAC推進課の岡田副審査役が情勢報告し、各JAの代表者がTACの取り組みを発表しました。

JAフルーツ山梨は「大藤支所における桃の土壌pH適正化対策について」を発表し、11JAが担い手の要望に対して、他部門と連携した提案を行い、担い手・JAの双方へ成果が得られた内容となりました。

参加者からは、「情報の共有は参考となる部分が多かった」「今後の活動に生かせるヒントや問題点などに気付くことができた」などの声が聞かれました。

山梨県本部は、TAC活動を始めていないJAにも今大会を足掛かりとし、JAと担い手をつなぐ懸け橋として活動していきます。



国産農畜産物商談会に「TACの店」を出展 担い手らとともに産地の魅力などアピール

〔耕種総合対策部〕

担い手らとともに
産地の魅力を実需者に
アピールするTAC



来場した実需者に
売り込むTAC



第12回JAグループ国産農畜産物商談会が、3月14、15日に東京・丸の内 東京国際フォーラムで開催されました。10県・16JA・20ブースの「TACの店」が出展しました。

「TACの店」は、担い手農家からの販売力強化に対する要望に応えるため、TACが産地の魅力や担い手の栽培にかける思いを直接バイヤーにつなげる機会として、広く実需者にPRするとともに、販路拡大を目指した取り組みです。

一昨年からTACだけでなく、担い手農家も商談会に参加し、TACとともに産地の魅力や出展商品をPR、来場された多くのバイヤーに伝える活動を展開しました。今年もTACと多くの担い手が参加し、バイヤーから国産農畜産物に大きな

期待を寄せる意見をいただきました。

● 担い手農家の声

例年、「TACの店」に出展しているが、今年はいこれまで以上に熱心に話を聞いてくれるバイヤーが多かった。

これからの取引につながる相手先が見つかった。今後、興味を示してくれたバイヤーと連絡を取りたい。

● TACの声

初めての出展だが、販路拡大につながった。普

段は生産場面での関わりが主だが、販売担当とともに取り組むことで視野が広がった。

担い手らとともに出展し、一緒に取り組むことで相互理解が深まった。

「TACの店」では、TACが担い手農家を日々訪問しているからこそ地域の魅力や担い手農家の思いを発信することができそうです。

これから国産農畜産物商談会で聴き取った実需者ニーズをしっかりと分析し、担い手農家にフィードバックするとともに、JA内での部門間連携を生かして、生産振興や商品開発を図ります。今後も担い手農家からの販売力強化に関する要望に応えていきます。

平成29年度

JAグループ農機サービス士 **44人** を認定

技術力向上で組合員との信頼強化へ

全農は、平成29年度のJAグループ農業機械検定を行い、1級9人、2級35人の合格者を新たにJAグループ農機サービス士として認定しました。【生産資材部】



2級のコンバイン
点検試験風景



2級のトラクター
点検試験風景

JAグループ農業機械検定は、経験年数に応じた農機担当者のスキルアップが目的です。実際の修理・整備に必要な知識・技能や、メーカー固有の機構・新技術、納品、安全指導など、より業務に密着した内容を検定項目に取り入れて実施しています。

平成29年度は1級を37人、2級を138人が受検しました。このうち、学科試験と実技試験の両方で合格基準に達した受検者をJAグループ農機サービス士として認定しました。平成23年度から実施しているJAグループ農業機械検定は、平成29年度の合格者を含め累計で1級42人、2級202人、合計244人の農機担当者が農機サービス士として全国の農機センターで活躍しています。

平成30年度もJAグループ農業機械検定を実施します。JAグループ農業機械検定は、JAグループ農機事業担当者の一層の知識習得と技術の研鑽^{けんさん}を促し、組合員との信頼がより一層強化するものと期待しています。

平成29年度「JAグループ農機サービス士」認定者

等級	氏名	県名	JA名
1級	黒井 伸一	山形県	JA庄内みどり
	杉浦 範明	岐阜県	全農岐阜県本部
	大野 公寛	岐阜県	全農岐阜県本部
	吉村 輝久	滋賀県	全農滋賀県本部
	宮島 信彦	佐賀県	JAさが
	松尾 文弥	佐賀県	JAさが
	古賀 良	佐賀県	JAさが
	永松 慎司	熊本県	JAかみましき
	阿部 恭幸	本所	全農本所
2級	小原 史也	岩手県	(株)JAグリーンサービス花巻
	坂野 裕樹	山形県	JA山形おきたま
	湯澤 啓紀	栃木県	全農栃木県本部
	関谷 隆志	栃木県	JAなすのサービス(株)
	中東 晋太郎	群馬県	全農群馬県本部
	塚本 匡紀	群馬県	全農群馬県本部
	石橋 賢一	千葉県	JA成田市
	大木 利也	東京都	JA東京みらい
	山田 渉	新潟県	JA佐渡
	恩田 道紀	新潟県	JA越後さんとう
	沼田 智宏	富山県	あおば興産(株)
	藤波 佳彦	三重県	JA津安芸
	山下 和紀	三重県	JA松阪
	辻 直樹	三重県	JA松阪
	飛矢地 博之	三重県	JA松阪
	元木 正貴	三重県	JA松阪
	橋本 学	滋賀県	JAおうみ富士
	山本 将人	滋賀県	全農滋賀県本部
	上杉 勝	滋賀県	全農滋賀県本部
	岩佐 文雄	滋賀県	全農滋賀県本部
	青木 勇人	兵庫県	JA兵庫西
	青木 誉之	島根県	(株)オートパルみどり
	迫田 直之	広島県	JA広島中央
	新宅 洋平	広島県	JA広島北部
	横手 誠	広島県	(株)JA農機広島サービス
	木村 勇貴	広島県	JA庄原
	中村 友哉	山口県	全農山口県本部
	岡 史朗	山口県	全農山口県本部
	来見田 健悟	山口県	全農山口県本部
	村中 稔	山口県	全農山口県本部
	北村 剛	佐賀県	JAさが
黒岩 龍一	佐賀県	JAさが	
友井川 昭弘	鹿児島県	鹿児島県経済連	
吉田 竜也	鹿児島県	鹿児島県経済連	
福重 隆佑	本所	全農本所	

卓球ドイツオープン 石川選手が優勝!



ドイツオープンで優勝を決め、ガッツポーズの石川選手

写真提供: ITTF

4月29日から世界卓球にも注目

卓球のワールドツアー・ドイツオープンが3月20～25日に開催され、全農所属の石川佳純選手が女子シングルスで優勝しました。ドイツオープンは、ワールドツアーの中で最も格付けの高い大会の一つです。今シーズン初の優勝に、試合後のインタビューで石川選手は「中国人選手に勝つての優勝なのでとてもうれしいし、自信になる」と語っています。 **【広報部】**

4月29日から石川選手が日本代表として出場する「2018世界卓球選手権ハルムスタッド大会(団体戦)」が、スウェーデンで開幕します。全農は今大会でも日本代表選手へ「ニッポンの食」を贈呈し、選手がいつも通りのプレーができるよう、「食」の面から支えます。中継番組もテレビ東京系列、BSジャパンで放送予定です。今後も石川佳純選手・卓球日本代表選手への応援をよろしくお願いします。



写真提供: ITTF

決勝戦でプレーする石川選手

JA全農 オフィシャル アプリ

トピックス ポイント ケーボン

「食と農」の情報を広く消費者へ!

スマホアプリを公開中

JA全農のイベントや新商品に関する最新情報がさらに充実! 作動環境: スマートフォン iOS8以上 Android4.3以上

JAタウン

シヨップ紹介

JAタウン | 検索

クリック

JA庄内たがわ(山形県)

JAタウンはこちら

月山筍(根まがり筍、約1^{kg}、約25本)3500円

山頂付近ではまだ雪が残る^{がっさん}霊峰・月山。自然豊かな月山で育った「月山筍」が、春の雪解けとともに細竹林の根元に顔を出し、暖かくなるとともに大きくなりました。

赤みがかかった緑の皮をめくると中はクリーム色の輝く肉質。月山生まれの月山育ち「月山筍」。定番の天ぷらや、おみそ汁、エグみがないので皮付のままあぶっても! 旬の味覚をこの機会にお召し上がりください!

なお、ご紹介した商品は、4/27(金)まで、FAXでもご注文を承ります(ご自宅宛代金引換のみ)。

【ご注文方法】①商品名、規格、数量②郵便番号③住所④氏名⑤電話番号⑥FAX番号をご記入のうえ、FAX番号03-5218-2517までご送信ください。

商品代金の他、お届け先により送料がかかります。ご注文期間を過ぎると価格や送料が変わる場合があります。

JA全農のインターネット ショッピングモール

▶ご注文は <http://www.ja-town.com>

▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報、商品等の発送にのみ使用します。